



千葉労働新聞

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.9.30 No. 3469

第18回定期大会始まる、速報初日 手続団の各力が勢多し — 現状・決意などを報告 —

初めに委員長あいさつに立った中野委員長は、今定期大会がこれまででない重要な大会であることを明らかにした上で、その課題を提起して一丸となった団結で闘うことを訴えた。

つづいて来賓のあいさつでは、十二名の方から一時間にわたって激励と共にたたかう決意をうけた。祝電・メッセ

ジが紹介されたのち、経過報告に入り、一般経過報告、組織財政検討委員会答申、法

対報告、労働協約・協定締結報告、会計報告、会計監査報告がそれぞれ報告された。

質疑討論では、関代議員(営業分科会)から職場での当局との攻防と勤務の問題について、山田代議員(津田沼支部)からは統廃合後の職場報告と総武緩行線の一部ダイヤ改

の問題について意見がだされた。執行部より山口交渉部長・田中書記長がそれぞれ答弁を行った。

その後OB会松崎会長、動労連帯高崎和田山委員長、動労西日本平岡書記長、動労水戸辻川委員長からJR体制をうちやぶり、組織強化拡大へともにとたたかう決意が表明された。

そして第一日目のハイライトになった大会にかけつけた二十二名の被解雇者からのあいさつが行われた。財政基盤の確立のため、めったに一堂に顔をあわせる機会のない争議団のズラリと並んだ姿を前にして、JRの現場で苦闘を続けている組合員も、あらためて勇気づけられたたかう決意をあらたにした。

顧問の中江昌夫さんのあいさつのち、議事に入り、大会延期承認、決算承認、犠救

いまむかえてきている情勢は、激動というより激震というものがふさわしい時代の到来だ。JRにおいても分割・民営化の破綻は、行きつくところまで行きついている。JR総連の分裂は、「一企業一組合」の破産だ。こうした一切の責任をとらせなければならぬ。

この激震する時代のなかで労働者はいかにたたかうか、これを決定するのが本定期大会での第一の課題だ。情勢にたいするちゃんとした認識をもとう。

第二に反合・運転保安を対

置してたたかう。勤務制度の改善や長時間労働はゆるせない。清算事業団闘争勝利、二十八名の解雇撤回と結合させてたたかおう。

第三に労働運動の問題だ。反戦闘争を基軸にした労働運動を。いまこそ反戦闘争が求められているときはない。

第四に共闘の輪の拡大を。全国労組交流センターもようやく軌道にのりはじめた。物販を再重視し、2倍化の方針を提起した。これをやりきろう。以上四点を柱に、一丸となった団結をうちかためよう。

中野委員長あいさつ (要文7日)

規則・総合共済規則適用承認、労働協約・協定締結承認をそれぞれ拍手で承認した。なお議救規則適用では、一部制限適用について募張支部代議員より質問がだされた。こうして、第一日の議事は十八時前に終了した。

第二日目は、方針・予算の提案とそれについてたいする質疑を中心にして、新役員を選出などが行われる。討論をより一層深めながら、激動の時代にふさわしいたたかう方針をつくりあげよう。

来賓あいさつ (初日・発言順)

広田敏雄氏(県労連センター事務局長)
赤桐操氏(社会党県本委員長・参院議員)

北原敏治氏(三里塚反対同盟事務局長)
北鈴木俊輔氏(千葉市議会議員)
足立満智子氏(成田市議会議員)
山岳夫氏(動労千葉顧問弁護士)
清井礼司氏(動労千葉顧問弁護士)
辻田実氏(館山市議会議員)
糟谷一氏(千葉県労住協)
宅間一久氏(千葉交流センター代表)

佐藤正子氏(動労千葉家族会会長)
松崎靖氏(動労千葉OB会会長)
和田山繁氏(動労連帯高崎委員長)
平岡誠氏(動労西日本広島支部委員長)
川慎一氏(動労水戸委員長)
中江昌夫氏(船橋市議会議員・OB会)

反合・運転保安確立！ 反戦・反核を担う労働運動を！

反戦闘争を基軸にした労働運動を。いまこそ反戦闘争が求められているときはない。

第四に共闘の輪の拡大を。全国労組交流センターもようやく軌道にのりはじめた。物販を再重視し、2倍化の方針を提起した。これをやりきろう。以上四点を柱に、一丸となった団結をうちかためよう。

反戦闘争を基軸にした労働運動を。いまこそ反戦闘争が求められているときはない。

第四に共闘の輪の拡大を。全国労組交流センターもようやく軌道にのりはじめた。物販を再重視し、2倍化の方針を提起した。これをやりきろう。以上四点を柱に、一丸となった団結をうちかためよう。

反戦闘争を基軸にした労働運動を。いまこそ反戦闘争が求められているときはない。